

「今、私が生きているのは」

貴志川中学校 2年 福原 栞奈

私は一人っ子で、父と母と私の三人家族で暮らしています。私はよくスマートフォンで、SNSを見ています。「一度スマホから手を離しなさい。」と言われることが多くあり、私は「勉強しなさい。」と伝えたいのだと思っていました。

そんな日々が続く中、私はまた SNS を見ていました。その SNS に、「お前らは本当に馬鹿だ。」という言葉から始まる動画を目にしました。文字しか映っていないのに、たくさん的高評価がついていました。それは、両親を亡くした成人の人が訴えかけるような動画でした。「連絡をせずに遅くに帰ったことがあるだろ？そのとき親はすごく心配して待ってんだぞ。」「一度でも嫌いと言ったことがあるだろ？それを半年は引きずってんだぞ。」と伝えていました。私は「そんなもの人によって違うじゃないか。」と思いました。しかし、「お前らは救いようのある馬鹿だ。」とまるで「当たり前はありがたいことで、気づかないうちに親がやってくれているから今があるんだ」とでも言われたかのように、私ははっとしました。「自分は救いようがない。」その言葉で私が今生きているのは、どんなささいなことも、毎日親がしてくれているおかげなのだと悟りました。「今 SNS を見ているヒマがあるなら、親に育ててくれてありがとうの一言でも言ってみろ。まあ、お前がもらった愛に比べれば、ほんの小さなことにすぎないがな。」と残して動画は終わりました。

それ以降、親と何か言い合いになったときは、何度もその動画が頭をよぎります。そして一人になったとき、友達と何かあったとき、どれだけ落ち込んでいても、「私は決して独りであったことはない。」と思えます。いつだって寄りそってくれていたのだと思えます。それだけ私を大切にしてくれていたんだと気づくことができました。次第にあのときの、「一度スマホから手を離しなさい。」という言葉には、「さみしい」という思いも隠されていたのではないかと考えるようになりました。

学校の後には部活があり、その後は習い事もあります。さらに宿題もあったので親と話す時間は少なくなりました。今思えば、私が集中できるようにとテレビも消して、会話もほとんどせずに、環境をつくってくれていました。そして話せる機会ができて、私は SNS を見ていました。となると、本当に話せるのはご飯のときだけです。私の親も、かつては子どもだったのだから、「さみしい」と思うのも合点がいきます。そう思っていなかったとしても、家族とのコミュニケーションをおろそかにしてはいけないと気づくことができました。

あの動画を投稿した人はきっと、「自分のように後悔してほしくない」と考えていたのだと、私は思います。

家族からもらった愛を振り返ると、生きることのありがたさ、幸せを感じるものがどんなに贅沢かが身にしみて、知ることができました。私は未だ「育ててくれてありがとう」を言うことができていません。人はいつ死ぬかなんて分からないからこそ、「言いたい」という気持ちは強まります。せっかく自分の気持ちに正直になれたのだから、恥なんて捨てて、いい加減素直になろうと思います。

みなさんにも家族や友人など、大切な人はいると思います。なんでもない日に、「ありがとう」と伝えてみてください。周りが見えるようになったり、より自分を知ることができると思います。何より、自分を好きになれることでしょう。

